

27年度 氷見市教育総合センターだより 第5報

「『ひみっ子の夢と希望』きらめき推進事業」 11月10日(火)

演題 「日本一へのキセキ」

講師 富山第一高等学校サッカー一部監督 大塚 一朗 氏



講師の大塚氏は、富山市出身。大学卒業後、古川電工に入社。元日本代表監督の岡田武史氏らと共にプレーし、1989年に渡英。帰国後は、アローズ北陸のコーチなどを経て、2004年、イギリスで欧州サッカー連盟のA級コーチライセンスを取得。2005年、アルビレックス新潟シンガポール監督に就任。2008年、富山第一高等学校サッカー部のコーチ、2012年からは監督に就任。2014年1月、新しく生まれ変わる最後の国立競技場で、サッカー部を全国制覇へと導きました。また、先日11月7日には、2年ぶり26回目の全国大会出場を決めておられます。県内外の小・中学校や高等学校、企業の研修会などでも、講師として活躍しておられます。

今年度の中学2年生を対象とした「『ひみっ子の夢と希望』きらめき推進事業」は、富山第一高等学校サッカー一部監督の大塚一朗氏を招いて行われました。

大塚氏は、全国高等学校サッカー選手権の映像を上映しながら、毎朝、自主的にシュート練習に励んだり草むしりを行ったりした選手たちを紹介し、一生懸命に取り組む大切さを生徒たちに伝えてくださいました。さらに、ご自身も心に刻んでおられる恩師の言葉を紹介し、会場の生徒たちに、自分を高めるために一生懸命に努力していこうというメッセージを熱く語られました。

・・・生徒たちへのメッセージ・・・

- 1 真面目で一生懸命な人に、神様は必ずどこかで見ていてプレゼントをくれる。
- 2 柳や竹のように折れそうで折れない、しなやかな人間に育ってほしい。
- 3 負の経験をするのが人をしなやかにする。
- 4 辛い思い、悔しい思い、悲しい経験、うまくいかないことなど、我慢することがたくさんあると思うが、折れないでほしい。しなやかな人間になれるのだから。神様は必ずどこかで見ている。

・・・自分の生き方を考える機会になった大塚一朗氏の講演・・・

講演を聴いての生徒の感想 (一部抜粋)

○感謝することが大切だということを改めて感じる事ができました。自分やチームの仲間だけでやっているのではなく、たくさんの人の応援や支えによって今の自分があるので、いろいろな人に感謝してこれから頑張ろうと思いました。
(南部中)

○「しなやかな人になれ」には柳の木のように、折れそうで折れない心をもてという気持ちがあるということが分かりました。これから私は、この言葉を思い出して、失敗しても心を折らせずに、前をしっかりと向いて頑張っていきたいと思います。
(南部中)



講演を聴いての生徒の感想（一部抜粋）

<p>○自分自身の気持ちがとてもやる気になって、これからどんなことがあっても前向きに生きていこうと心に決めました。失敗して落ち込むことが多い私ですが、神様がいることを信じて、前向きに努力していきたいと思います。（北部中）</p>	<p>○講演を聴いて、僕は思ったことがあります。それは、仲間と協力することの大切さです。ベンチに入れなかった選手の気持ちになってみると、すごく悔しかったと思いますが、そういうメンバーが応援をしてくれたから頑張れた面もあると思います。（北部中）</p>
<p>○一生懸命頑張った人は、後で良いことがあるから、今を真面目に生きることが大切だと学びました。また、クラスなどがまとまらない時は、話し合うと効果的だということも学びました。（西部中）</p>	<p>○それぞれの選手が悔しさや悲しみを経験し、それをバネに、辛くても夢を諦めずに一生懸命努力するという話が印象的で感動しました。私も夢に向かって、どんなことがあっても頑張っていこうと強く感じました。（西部中）</p>
<p>○「一生懸命やっている人や思いやりのある人に神様は降りてくる」この言葉に、僕は強く共感しました。僕の好きな本の中に「どう生まれたかではない。どう生きるかだ」という一節があり、大塚さんと似ている気がしました。（十三中）</p>	<p>○私は先日、部活の試合で負け悔しい思いをしました。しかし、大塚氏の話聴き気持ちが軽くなり、前向きに考えることができました。また、試合の映像を見てやはり、応援は大切なものだと感じました。（十三中）</p>
<p>○大塚翔さんが毎朝5時から練習していたり、村井さんが左足で蹴る練習をしていたり、毎日積み重ねて頑張ってきたことを、神様はしっかり見てくれていたと聞いて、私も何かを一生懸命頑張れる人になりたいと思いました。（灘浦中）</p>	<p>○心に残ったことは、力強くおっしゃっていた「神様はいる」という言葉です。ビデオを見たとき、私は実際にテレビで富一の優勝の場面を見ていたので、あの時の感動がまたよみがえってきました。大塚さんが伝えてくださった言葉が心にとっても響きました。（灘浦中）</p>
<p>○大塚さんの話から、「話合いをして人の意見を聞くこと、自分にできることを自分で考えること、人を動かすには、その人のことをよく見て、その人が自分から行動できる環境をつくること」が大切だと分かったので、これからの生活に生かしていきたいと思います。（西條中）</p>	<p>○大塚さんが言っていた神様とは、やるべきことをしっかりと、努力を怠らない人に良い結果がプレゼントされるということだと思いました。だからぼくは、やるべきことは何か、自分で判断して、優先するべきことからやっていきたいです。（西條中）</p>



(大塚氏に合わせて手を動かす生徒の様子)

「タブレット PC 及び電子黒板を用いた授業」公開研修会

南部中学校 11月18日(水) 朝日丘小学校 11月24日(火)

子供たちの情報活用能力を育成し、学習効果を高める ICT 機器の活用について理解を深める研修会がありました。

南部中学校 3年 美術科「ピカソって何がすごい? (鑑賞)」

ピカソが生きた時代背景を迫力ある映像で提示したり、個々に「ゲルニカ」の画面の操作活動(拡大等)を取り入れたりしていました。人物像や制作された背景への理解を深め、作品に込められた表現意図について深く考えている生徒の姿が見られました。

朝日丘小学校 5年 算数科「面積の求め方を考えよう」

一人一人がタブレット PC を操作しながら、図形を切り取ったり回転させたりして思考を深めていました。また、自分の考えを前面の電子黒板に送り、その画面を使って友達に意欲的に説明している姿が見られました。

富山大学の長谷川春生准教授からは、ICT 機器を授業に活用する際のポイントとして、言語活動を意識すること、ノート指導も大切にして単元全体の中でメリハリを付けて指導すること、「思考を深める」、「表現力を高める」等、授業のねらいを明確にして活用することなどを教えていただきました。



ピカソってすごいな



図形を動かしてみよう

第2回 自主研修会を開催

11月25日(水)

47名の希望者が集い、熱気のコもった真摯な自主研修会が開催されました。

まず、全体会「全国学力・学習状況調査結果を踏まえた授業づくり・学級づくりのポイント」、の講話を聞いた後、教諭部会は「分かる授業、できる授業をつなぐ指導と評価」、養護教諭部会は「保健の授業(TT)で留意すること」について基調提案を聞きました。その後、

[A: 落ち着いた学級への指導 B: 指導と評価を一体化した指導 C: 通常学級におけるUDの指導
D: 学習・生活指導での家庭との連携 E: 児童生徒との接し方や保健室運営]

の5分野9グループ(1班4~6名編成)に分かれ、市教育総合センター指導主事や市学力向上推進委員が指導助言者となり、参加者が直面している課題等について具体的・実践的な話し合いがなされました。

小学校の先生だけでなく、中学校の先生からも子供の実態、具体的な取組をきくことができ、よかったです。自分とは違う学校、校種の先生のお話を聞くことはとても勉強になりました。(小:教諭)



(金原先生の講話を真剣に聴く受講者)

明日から、帰りの会で話すことについて意識してみようと思いました。つい、小言が増えてしまっていたなど反省しました。(中略)書く作業も話し合う活動も、今まで以上に大切にしていきたいです。(中:教諭)



(テーマごとの活発な班別協議)

保健学習と保健指導の違いについて改めて考えることができました。(中略)班別協議では他校の取組について助言の先生から指導をいただいたことで、心のもやもやが少しスッキリしました。(養護教諭)



(課題を話し合う養護教諭)

第2回 氷見市いじめ問題対策連絡協議会 11月27日開催

第2回氷見市いじめ問題対策連絡協議会が開催されました。

「10月いじめ対策強化月間の取組結果」「今後のいじめ問題に対するアンケート」について事務局から説明した後、各委員からの貴重なご意見や質問をいただき、その後、協議に入りました。後半は、富山大学人間発達科学部 准教授 久保田 真功先生に、「学級集団といじめの関係について」の講話をしていただきました。

・・・・・・協議された内容について（一部抜粋）・・・・・・

○ 各小中学校で実施された「10月いじめ対策強化月間」の取組結果について協議



・強化月間は、学校だけが対象なのか？地域の団体や少年団や児童の方々もいっしょにできるようになれば一体感が生まれるのではないかと。各種団体にもっと働きかけるべきである。学校、家庭、地域連携は当たり前のこと。市が一体となり、それぞれの団体が課題をもって実施していけばいじめは起きない。

- ・親子活動をどの学年も実施しているので、いじめについて向き合う活動や行事を取り入れたら親や子供の理解も深まる。
- ・地域のいろいろな機関ともっと話し合い、寄り添うことが学校に求められ、隣接する学童保育の指導者と共に、学ぶ姿勢でいじめ撲滅に向けて対応していく。

○ 今後のいじめ問題に対するアンケートの取組について協議

- ・アンケートを定期的の実施することは、予防策として有効である。しかし、内容等についてマンネリ化しないように努めなければならない。実施に当たっては、教師や保護者が常に真剣な態度を見せないと、子供は本音で語らない。
- ・保護者、児童のアンケートの取組については、自宅で記入し封筒で提出している地域もある。

演題「学級集団といじめの関係について」富山大学人間発達科学部 准教授 久保田 真功先生

学級集団の特性といじめについて、いじめの少ない学級の特徴を挙げられた。

- ・行事には皆で協力的である。 ・クラスで決めたことは守る。
- ・掃除は素早く協力して終わる。 ・困ったことは皆で話し合い解決できる。等

学級の実情に応じてチェックをしていくことが大切である。

☆お知らせ 富山地方法務局・富山県人権擁護委員連合会より、再度、平成27年度「子供の人権SOSミニレター」事業について案内がありました。資料を各小中学校へ送付しますので、ぜひご活用ください。

お知らせ ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

平成27年度 教育論文・教育実践記録募集について

日頃の地道な教育実践に基づいた自主的な研修を奨励し、顕彰するとともに、教員相互の資質向上を願って、今年度も教育論文・教育実践記録を募集します。奮って応募ください。

(募集要項)

1 規格

- ・A4判サイズ、本文12ページ以内
- ・字数は40字×40行とし、写真、図、表などを本文に挿入する場合も枠内におさめる
- ・提出は2部（閉じたもの、閉じてないもの各1部）、概要（A4判1枚）2部

2 応募締切 平成28年1月8日（金）17:00まで

3 提出先 教育総合センター

※ 詳細は、第2回 小・中学校長会議資料をご覧ください。

